

令和五年

松香 Komunikado

令和五年六月度 月次祭 ごあいさつ

分苑長 山本 健

Saluton al ĉiuj

新緑の気持ちの良い日々も終わり、早くも台風が接近し大雨を降らすなど、被害が出ています。豊橋も激しい雨が降りましたが、信徒の皆さまには、幸い大きな被害などなく、お蔭を頂きました。

ただいまは松香分苑の令和五年六月度の月次祭を、遠方からも多数ご参拝いただき、すがすがしく齋行させていただきました。ご参拝・ご奉仕くださいました皆様方、又オンライン参拝並びにお玉串をお送りくださりました方々、誠に有難うございます。

引き続き相談役の二年祭も皆様と共に行わせていただき、誠に有難うございました。さぞ喜んでいらっしゃると思います。相談役は、松本先生同様に、み手代お取次ぎで多くの方を救う御用に誠心誠意して居りました。

六月十一日発行

第三百二二号

大本松香分苑

豊橋市南牛川二・三・二〇

電話 ファックス

〇五三二・六三・二一七三

発行責任者 山本 健

その御用は内容・頻度と共に、トップレベルであったと思います。その、み手代ご下付百周年、み手代歌碑建立六十周年記念祭典が、先日、六月四日に、熊本杖立て温泉にて、教主様ご臨席のもと、数百名の方々が参拝され執り行われました。その同じ月に相談役の年祭が行われるのも偶然ではないかと思われまます。祭典後の教主様のご挨拶を、一部ご紹介いたします。

「〈前略〉この時の杓子が後に、み手代と呼ばれるようになり、現在、宣伝使の病氣平癒のお取次ぎに用いられております。大本の宣伝使が、このみ手代を頂くということは瑞の御魂の大神様から万有救済の偉大なご親権をお授け頂くということであり、誠に尊い御用なので御座います。宣伝使の皆様には、これからも益々み手代のご活用に励んでいただきますよう、又現在宣伝使でない方は是非宣伝使になっていただき、み手代お取次ぎによって、一人でも多くの方が瑞霊のひかりに浴され心身共

に健やかに幸せになっただけです。心からご祈念申し上げます。これから世の中は、大本に教えを求めて来られる方々がたくさん増えてくると思っています。本日のみ手代下付百周年の記念祭典を機に、これからも一層、厳の御魂、瑞の御魂の大神様のご守護のもと、尊いみ救いの御用に皆様と共に誠心誠意お仕えさせていただきますいと存じます。」とお示しくださっております。宣伝使の方は、教主様のお言葉を受けて、み手代お取次ぎの御用にお仕えさせていただきますでしょう。まさに今、それが必要な時代になってきたものと思いません。

先日、豊橋市内に住む大学生が、大本について教えてほしいと、ひよっこり店に入ってこられました。話を聞いてみると、霊界物語は全巻買い求め、現在三十七巻を音読中とのことでした。音読で、家の内外を清めていただく気持ちで拝読しているとのことでした。水鏡、玉鏡、月鏡の三鏡も持っており、読み終えたようです。帰る際に、「ご神徳談集第三巻と生きがいの創造を貸してあげましたら、数日後に又突然訪ねてきて、御神徳談すべて読みました、「み手代お取次ぎについて教えてほしい」とのことでした。夏休みに大道場修行を受けるように、日程表を渡しました。

彼は、「自分は世の中の人の病気やそのほかの苦しみを取ってあげたい」とのことでした。

先ほどの教主様のご挨拶の内容そのものが、早速現実にあらわれてきました。この激動の令和五六七（みろく）の時に、大神様がなされることは、私たち人間にはとても理解できませんので、とにかく教主様のご教示に素直に従って、言心行一致で実践させて頂くことが大変重要なことと思います。

これに関連して「九月八日の仕組み」に関するお示しを、ご紹介いたします。

＊「九月八日の仕組み」

今日は九月八日といふ記念すべき日であります。由来大本では九月八日を非常に尊重するのであります。何故ならば、九月九日は菊の節句であり、九月八日は之に先立つ事一日であって、**何事も世の中に先端を切り、来たらむとする事を前つ前つに覚って実行しているから**であって、これを九月八日の仕組みといふのであります。

＊「神命と実行」

神の命じたもうことは即座に実行せねばならぬ。寸時の猶予も許されないのである。命令を受けた時に実行せないで延ばすと、その事はもう成就しないのである。もし後で成就することになっても、それは他の人がやってしまうから、命令を受けた本人にとっては、つまり実行できなかつたことになる。大本の事は、九月八日の仕組みで、**世間に先立って、リードするのであるから**、一日遅れると世間並みになってしまう。後略 とあります。